

## 広野グラウンドの歴史

1962年8月	広野グラウンド用地として神戸市垂水区神出町の土地 600 万平方メートルを購入
1962年7月	広野グラウンド造成鉄入式（第一期工事）を行なう
1963年12月	広野グラウンド第一期工事（野球場、陸上競技場、補助運動場）の造成完了
1964年8月	広野グラウンド第二期工事（簡易合宿所 3 棟、陸上競技場整備）が完成
1967年10月	広野グラウンド第三期工事（合宿所本建築、グラウンド改修、観覧席建設等）着工
1968年5月	広野グラウンド第三期工事の完工落成式を行なう
1983年8月	広野グラウンドへの進入路の舗装工事が完成

### 広野グラウンドができるまで

甲南大学広野グラウンドができるまでについて、『甲南学園の 60 年』、『甲南大学の 30 年－研究教育の歩み－』から引用する。

（甲南大学の施設は学生数の増加にともなって）旧制高校時代からの本館の東西両翼は、すでに拡張され（5・6号館）、さらに34年に11号館が増築されていたが、36年には理学部教室（7号館）の増築および改装がなされた。37年には、さきに購入した明石郡神出村五百蔵の山林に近く、広野ゴルフ場の南側（現在 神戸市垂水区神出町古神字浦山）の土地約 11,500 坪を地元の好意により、約 1,556 万円で買収し、さらに隣接する市・国有地の一部などの払い下げを受けた。前記五百蔵の山林を合わせて、広野に約 32,000 坪を所有したことになる。38年、この地に陸上競技場・野球場・補助運動場を持つ総合グラウンドを建設し、43年鉄筋 3 階建の合宿所、および隣接して馬場・厩舎を増設するに至った。（甲南学園史資料室委員会編『甲南学園の 60 年』1979年、pp.76-77.）

昭和 37(1962)年 7 月、第 1 回リーダーズキャンプ（尾道ユースホテル）を行なうなど、学生の自治意識・活動も活発になってきた。運動部は「体育会」と名称を変更して組織の強化を図り、総合グラウンド建設の要望書を学長に提出した。グラウンド問題は、学生数の増加と大学設置基準の校地面積との関係から、32年頃より毎週、学長、校長、事務局長、体育科研究室主任らが阪急、阪神、山陽、神戸電鉄沿線に適地を探していたのであるが、広い総合グラウンドに適するような土地を見つけることができなかった。ようやくにして甲南と旧縁のある垂水区神出町古神の地元住民の好意により、グラウンドの適地を求めることができ、昭和 38(1963)年 7 月 5 日に地鎮祭が行なわれ、「甲南大学神出体育場」（のちに「総合グラウンド」となる）の道標が建てられた。突貫工事が進められ、翌年 5 月 17 日新入生歓迎会を広野グラウンドで行なうことができるまでになった。荒勝初代学長は、学生を週 1 回この美しい自然の中で教育したいと考えていた。午前中には語学、午後には体育実技をと考え、阪急、神戸電鉄の関係者にも意見を聞き、実現を目指していた。（甲南大学創立 30 周年記念事業委員会編『甲南大学の 30 年－研究教育の歩み－』1984年、pp.284-285.）